



THE ROTARY CLUB OF NAGANO WEST

長野西ロータリークラブ

例会 毎週金曜日 12:30~13:30 ホテル国際 2 1
事務局 〒380-0838 長野市県町576 ☎026(235)2800 FAX 026(235)0016
e-mail:nwrc1987y@sweet.ocn.ne.jp



会長／竹村 利之 幹事／粕尾 正康 クラブ会報委員長／中野 欣哉
SAA／松本 克幸 副 SAA／高井 亘

第1429回例会 2017年（平成29年）5月12日（金）

人類に奉仕するロータリー Rotary Serving Humanity

会長挨拶

竹村利之会長

『歌舞伎座がないのに歌舞伎町』

3年前に耐震診断した新宿歌舞伎町の施主に連絡を取ったときの事です。施主は上機嫌で歌舞伎町の意外な話をしてくれました。

日本最大の歓楽街といえば、歌舞伎町ということは皆様もよくご存じのことと思います。しかし歌舞伎座がないのに歌舞伎町というのは何故かと考えたことはありますか。歌舞伎町と呼ばれるエリアはもともと淀橋区角筈という名の住宅地でした。終戦後「新宿第一復興土地地区画整理組合」が結成され、焼け野原となった一帯にアミューズメントセンターを中心とした一大商業地にする事業計画が発案され、その中核に挙げられたのが歌舞伎劇場の建設だったのです。整備が順調に進む中で、町の名前が検討され、最終的に歌舞伎町と決定しました。しかし、その後トラブルがあって劇場の建設は中止されましたが、いったん決めてしまった町名を変える訳にもいかず、歌舞伎劇場がないまま発展し、日本一の歓楽街になりました。

ところが戦前の住宅地時代は、現在の歌舞伎町とは全く異なる顔を持った町でした。私が担当したビルの場所は、「赤い鳥」を創刊した児童文学者鈴木三重吉の終焉の地となっているようで、新宿区役所から表示板を置きたいと連絡があり、もちろん承知したそうです。あのような歓楽街にも知的財産があることを知り、意外な町の姿を知った次第です。

5月のお祝い事

おめでとうございます。



<会員誕生記念>

北川原健さん 粕尾正康さん 川橋昭義さん
宮川礼二さん 中野欣哉さん 滝澤 功さん

<結婚記念会員>

飯田弘己さん 轟 修平さん 山本博昭さん

<夫人誕生記念>

大橋みち江さん 鈴木和代さん
関 光子さん 清水ひろみさん

幹事報告

粕尾正康幹事

- ・次週19日は例会場 2階弥生の間
クラブ協議会開催 11:45~ 錦の間
- ・14日長野市内 6 RC 合同親睦ゴルフコンペ
- ・16日北信第1グループ次年度第一回会長・幹事会開催。

5 / 19 本日のプログラム

ゲスト卓話 小林 玲子 さん
「善光寺絵解き」

例会案内

5月27日(土) 森林(もり)例会
*26日(金)の例会はありません
6月2日(金) 会員卓話 川橋 昭義さん

ゲスト 飯島美香さん

特定非営利活動法人 食育体験教室・コラボ 理事長

- ・宮原友昭さん☆今年も暑い日々の到来でしょうか？寒かった日が懐かしいです。
- ・坂本千尋さん☆長女が明日20歳になります。一緒に酒を飲むのが楽しみです。

・合計 7,000円 ・スヌーピー 4,231円
 ・累計 606,329円

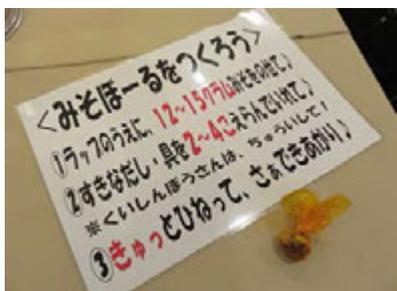
スペシャルオリンピックスについて 綿貫隆夫さん

先日スペシャルオリンピックス(SO)日本・長野の伊澤理事長が卓話をされました。SOとは知的障害のある人たちの自立と社会参加を目的として様々なスポーツトレーニングや成果の発表の場としての競技会・大会を提供する国際的なスポーツ組織です。カナダトロントRCが力を入れスポンサーになり活動を応援してきた歴史があります。本部はワシントンにあり170ヶ国以上で420万人のアスリート、100万人以上のボランティアが参加しています。(詳細は配布パンフレット参照)

SO日本・長野は、独立した形で活動しており、資金に関しては皆さんの好意で成り立っています。人道的な意味を持った活動でありロータリーの想いと一致していると思います。クラブの内だけでなく外へのオープンな活動も少しずつ取り入れていくのがいいのではないのでしょうか。よろしくお願いします。

講師紹介 青木茂人プログラム副委員長

飯島さんは、2010年3月にNPO法人食育体験教室・コラボを設立、地域内外の子供たちの為の食育活動を開始されました。東日本大震災をきっかけにご飯とみそ汁のある食卓の重要性を痛感。信州発一杯のみそ汁プロジェクトを主導しました。また、みそフェスタをここ数年開催し我々業界に代わりまして味噌のピーアールをして下さる力強い助っ人です。



ゲスト卓話 飯島美香さん

「みそ汁いっぱい運動」



NPO法人コラボは、子供たちに食と農を通じて、自分の住んでいる地域の環境や農業・食に関心を持ってもらい、自分たちで生き抜くチカラをつけるお手伝いをしています。

野菜が嫌いな子どもでも、自分で作った野菜は興味をもって食べるようになったり、お米よりパンが好きと言っていた子供が田植えや稲刈りに参加することで、農業(こめ作り)が大変な仕事なんだと気がついたりとてもうれしい変化を感じながら、この活動を続けています。

その中で、食育をすすめるひとつのツールに、『みそ』があります。

信州味噌という日本で一番の消費量をほこる長野県でも、味噌の消費量は下がっている



と聞きます。昔から、脈々とつながっている『みそ』には、健康的な効果も心理的な効果もあると気がついたのは、2011年東日本大震災です。大震災の際、避難所生活の皆さんが「避難所生活の食事で、あたたかい味噌汁とごはんがなにより嬉しかった」というお話を聞き、日本人の食卓が洋風化してきていても、やはり「日本食」に勝るも



のではないと痛感したからです。そこで、多くの皆様に味噌の魅力を発信するために、2014

年から「みそフェスタ」を開催し、昨年は、長野の象徴である善光寺で開催、日本食・郷土食・歴史・文化を感じるイベントとして皆さんに喜んでいただきました。これからも、地元長野から、食文化・農村文化・歴史など、多くの方々に関心をよせていただけますように、また未来を生きる子どもたちに、チカラを与える活動ができたらいいなあとと思っています。

今回、素晴らしいご縁と機会をいただきましたので、是非コラボ活動に、皆様のご協力とご賛同をいただけますようよろしくお願いいたします。

